

[掲載紙] 読売新聞「先読み深読み」

[掲載日] 2012年4月5日

[テーマ] イメージと数字のギャップ

今年1月、「ギョーザの購入額で宇都宮市が浜松市に抜かれた」というニュースがありました。1世帯当たりの年間の物品購入額がわかる「家計調査」（総務省）の2011年分の結果です。これは、全国51都市（県庁所在市と一部の政令指定都市）について公表されている便利な統計です。

県内をみると、水沢うどんやおきりこみなど小麦粉を使った名産品が多く、前橋市での生うどん・生そばの年間購入額は、讃岐うどんで有名な高松市の7,946円に次ぐ全国2位。小麦粉も3位につけています。

群馬県の「粉文化」のイメージは数字で裏付けられていると言えそうです。

▼家計調査にみる購入額

	生うどん・ 生そば	乳酸菌 飲料	グレープ フルーツ	鶏肉	キャベツ	キュウリ	こんにやく
前橋市 (順位)	5,184 2位	6,852 1位	1,171 1位	8,749 50位	2,277 44位	4,090 3位	1,792 48位
全国平均	3,698	3,338	639	12,601	2,516	3,211	2,144

(注) 2009～2011年の平均年間購入額。全国51都市についての順位。

(資料) 総務省「家計調査」

さらにみると、前橋市が全国1位の品目が二つあります。乳酸菌飲料とグレープフルーツです。

ヨーグルトも県内では人気で、購入額は水戸市が2位、前橋市が3位、宇都宮市が6位。北関東3県の都市が上位に入っていることにはどんな理由があるのでしょうか。

逆に購入額が少ない品目は鶏肉で50位。養豚が盛んで豚肉を好む県民性と言われていますが、その反面と言えるかもしれません。

県内の夏秋キャベツの収穫量は全国一ですが、キャベツ購入額はずっと低く44位です。一方、収穫量が2位のキュウリは購入額でも3位。両者の違いに、販売戦略のヒントが隠れているかもしれません。

県内の生産量が全国1位のこんにやくはどうでしょう。実は購入額は48位で、1位の山形市（3,854円）の半分にもなりません。2位以下は盛岡市、青森市、福島市と続き、東北地方の食卓で好まれているようです。

このように、一般的なイメージと統計数字で捉えた姿には大きなギャップがある場合があります。そこに、情報の先読み・深読みの入り口があるように思えます。

〔 日本銀行前橋支店長
竹澤 秀樹 〕